

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 9 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890101516
事業所名	グループホーム ガリラヤ久米
(ユニット名)	西通り1丁目1番地
記入者(管理者)	
氏名	上田 稔
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 『今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする』</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①外部評価の自己評価については、管理者や計画作成担当者が中心になり、一般職員には意見を聞いていない。また、結果について、フィードバックが出来ていない。 ・今回の自己評価も、一般職員に参加してもらうことは難しかった。 ・前回の結果については、ユニット会で簡単に報告を行った。 ②消防訓練を実施しているが、それを家族や地域に周知できていない。 ・避難訓練の写真を、ほのぼの通信(令和3年12月号)に掲載し、ご家族に確認していただいた。 ③口腔ケアについて、ご自分で歯磨きをされている利用者に関しては、口腔内の様子を観察できていない。 ・全員の口腔内の確認と記録をする予定であったが、実施できていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市の郊外の田畑がある緑豊かな地域に立地する事業所は、小規模介護老人福祉施設や介護付き有料老人ホーム、デイサービス等が併設した複合施設の1階部分にある。「のんびりと穏やかに、安心して過ごせる空間づくり」の考えのもと、広い建物で、敷地内には草木や花も多く、開放的な空間となっている。コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられているものの、窓越しや仕切りを活用した面会に対応したり、感染状況を見計らいながら、事業所周辺を散歩したり、ドライブをして季節の花を見に行くなど、少しでも屋外へ出て、気分転換が図れるような外出支援にも取り組んでいる。また、利用者の笑顔を引き出すことに着目して、法人独自の「トータルケア・アセスメントシート」や「総合記録シート」を活用したアセスメントに取り組むとともに、日々利用者によってできることをしてもらいながら、活き活きとした生活が送れている利用者も多い。さらに、情報共有やカンファレンスにも力を入れており、ユニット会議等を活用して、職員間で話し合うことも多く、より良いサービス提供が行われるよう努めている。加えて、法人・事業所として、働きやすい職場づくりを目指しながら、管理者と法人の代表者等がグループホーム内で、職員や利用者と一緒に語るなどの支援も行われている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	認知症の進行に伴い、会話やコミュニケーションが難しくなっている。家族の意向や本人の表情や様子を観察する事で、希望や意向の把握に努めている。	◎		△	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知の為、意向の把握が難しい時は、生活歴や職歴、本人の性格などを考慮しつつ、本人の心地良い状態や環境という視点で検討している。				施設独自の「トータルケア・アセスメントシート」を活用して、3か月に1回、職員は利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。新たな情報が得られた場合には、色を変えて追記するほか、年4回行うアセスメント情報を更新するなど、1枚の用紙で分かるようになっている。また、入居初期には、職員が利用者や家族から情報を聞くほか、入居後に、介護職員等がその時々思いなどの情報の聞き取りをしている。さらに、聞き取った思いや意向に関する情報が記載されていない部分もあり、暮らしの中での状態の変化や利用者の笑顔、思いなどの情報がアセスメントシートに記録され、より良い情報収集が行われることを期待したい。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人の生き方や大切にしてきたものを家族から聞く事で、本人の思いを推察している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	記録はとっているが、ほぼ生活の記録となり「暮らし方への思い」という面では具体性に欠けている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう気を付けている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時のアセスメントでおおよそ把握している。家族と話しをしている時に、若い頃の様子やこんなお母さんだったなど思わぬ情報が聞ける事がある。			○	入居申込書調査票を活用して、入居前の暮らしに関する情報を把握している。また、「トータルケア・アセスメントシート」を活用して、職員は利用者や家族等から情報を聞くほか、入居後の生活や基本動作などに関する情報を収集を行い、記録して把握している。さらに、睡眠・食事・排泄・バイタルサイン・生活リズムなどの情報は、「総合記録シート」に記載して、職員間で情報を共有している。加えて、他の介護日誌や申し送りノートを活用して、情報共有を図っている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	今までの生活の様子や職歴などから得意な事、好きなことなどを把握している。自分や他の職員の関わりの中で、状態変化があれば情報共有している。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の様子観察やカンファレンスで生活のリズムは入居者ごとに把握できている。自分や他の職員の関わりの中で、状態変化があれば情報共有している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のユニット会やカンファレンス以外にもその都度、話し合い検討している。家族も何かあれば知らせてくれる。困難事例カンファにて、アドバイスもらった際は、内容を職員に周知している。			○	毎月ユニット会議を開催し、利用者に関する検討を行うほか、必要に応じて職員間で話し合いをしている。3か月に1回カンファレンスを実施する際に、参加できない職員には、事前に意見を聞くほか、アセスメントシート等の情報を確認しながら話し合い、より良い介護計画に繋げている。また、コロナ禍において、家族が参加したカンファレンスの開催はできないものの、面会の機会などを通して情報を聞き、カンファレンス内で伝えて、計画の内容に反映している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ユニット会やカンファレンスで検討した結果、課題となる事柄を導き出している。普段から職員間の情報交換を行っている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日常会話を通して思いや意向を話し合っているが、具体的内容はなかなか引き出せていない。出来る範囲で、本人の気持ちに沿えるよう努力している。				コロナ禍において、介護計画に関する話し合いやカンファレンスには、家族や外部関係者の参加は難しいものの、面会の機会などを通して意見や要望を聞いている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から思いや希望を聞いている。さらに、カンファレンスやユニット会議などを活用して、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で意見を出し合いながら話し合い、介護支援専門員が取りまとめた介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	スタッフ間では常に情報を共有して、アイデアを出し合いながらケアに臨んでいる。コロナの流行で現在は実施できていないが、本人・家族からの聞き取りを行い、個別の外出を計画している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者の体調面を考慮しながら、本人が今まで楽しんでいた活動は少しでも継続できるよう考慮している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力については難しい家庭もあるが、協力が可能な家族に対しては面会や受診を通して協力をお願いしている。地域との協力体制は現状難しく計画の中には盛り込めていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス等で情報共有しており、内容についても確認している。ケアプランをファイルして共有している。	/	/	/	○ 介護計画のケア内容は、1週間利用できる「総合記録シート」に記載されているほか、ケアの実践の有無が確認できるよう工夫されている。また、シートには、利用者の笑顔を引き出すためのポイント欄が設けられているものの、ほとんどの記載が行われていないほか、ケアの実践による利用者の様子の記載も少ない状況となっている。今後は、具体的な会話内容や表情などを意識しながら記録に残せるよう職員間で話し合うとともに、記録された内容が、次の計画の実践等に活かされることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	状況確認については、特に変わった事があれば記録に残している。早出者がケアプランが実践できたか○×でチェックしている。具体的な記録は不十分である。介護計画を実践する上で難しかったり、変更が必要であればその都度、話し合っている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	通常は3か月毎に見直しを行っている。入院など特別に状態に変わりがあれば3か月以内であっても見直しを実施している。	/	/	/	◎ 毎月実施するユニット会議の中でカンファレンスを行い、「トータルケア・アセスメントシート」などの情報を活用しながら、利用者の現状を確認して評価を行うとともに、3か月に1回行う介護計画の見直しに繋げている。また、利用者の状況に応じて、適宜介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会でカンファレンスを行い、現状確認や問題提起、ケアの変更等話し合っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	実施している。心身の状態に大きな変化があった場合には見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	問題が起きた時にはその都度スタッフ間で話し合いを行い、ケアの方向性や方法を検討している。時差勤務の為、ユニット会以外の会議は難しい。	/	/	/	◎ 毎月ユニット会議を開催し、管理者が司会を行い、多職種で活発な話し合いをしている。また、職員が会議に参加しやすいように、開催日や時間帯を決めて、90分程度の会議を実施するとともに、参加できない職員には、事前に意見を聞くほか、会議では職員間で意見を出し合いながら、話し合いをしている。さらに、会議に参加できない職員には、会議の終了後に会議録を確認してもらいながら、口頭で情報伝達をしている。加えて、会議では、管理者や介護支援専門員等から、計画内容を職員へ問いかけて意見を聞くなど、チームで考えることを心がけている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ同士で些細な事でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。お互いの意見を尊重し、相手の話を聞くようにする姿勢を持つようになっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	ユニット会を毎月実施している。業務や行事の都合で開催が難しいと思われる時は、その都度日程調整を行い周知している。会議録を回収している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員が出動した際に、早出がその日の申し送りを行う。また大切な内容は日誌や記録シートに記録し、翌日以降の出動者も内容が把握できるようにしている。ケアの変更などは連絡ノートに記入する。	◎	◎	「総合記録シート」を活用して、毎日の利用者一人ひとりの生活状況等の確認を行い、職員間で情報の把握に努めている。また、介護日誌で、利用者に関する日々の状況を伝えるとともに、連絡ノートを活用してケアの変更点を伝えるなど、用途を使い分けて、分かりやすく活用できるようになっている。さらに、職員は出勤時に連絡ノート等に確認して押印を行うとともに、日々の口頭での申し送りによる伝達などを加えることで、職員間の情報の漏れがないようにしている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	入居者の重度化に伴い自身で「したい事」を決めるのは難しい状況となっている。逆に毎日のルーティーンを実施する事で落ち着いて生活出来ている入居者が多くなっている。	/	/	/	○ 入浴時の着る衣服、飲み物の温度や種類など、職員は利用者実際に見て確認してもらいながら、自分で選べるよう支援している。また、職員は利用者が選択しやすいように、二者択一にするなどの工夫もしている。日々の生活における趣味活動や脳トレなどの実施する際にも、利用者が希望するものを提供し、楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、起床や食事の時間なども、利用者の希望や状況に応じて対応をすることで、職員は利用者一人ひとりの生活のペースを崩さないような支援を心がけている。加えて、日々の観察の中で、職員は利用者の思いなどを想像しながら、声かけや準備を心がけた支援を実践している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	機会があれば二者択一できるような問いかけをしているが、認知症の為選ぶ事自体が難しくなっている。問いに対して「わからん」「どっちでもええ」と答える事が多い。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や食事の時間など、ある程度決まった時間はあるが、その時々状態に合わせて対応している。特に重度化の進んだ入居者には、本人の生活のペースやリズムに配慮し気分よく生活できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	入居者に接するときは明るい表情と声を心掛けている。また一人ひとりの性格や好みを把握し、どう接すれば喜んでくれるかを探りながら対応している。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	本人の表情や言葉から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう備付けている。また、生活のパターンからおおよその検討をつけ、トイレに誘導したり、間食を準備するなど不安や不快な状態を長引かせない努力をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	拘束虐待委員会の活動を通して人権や尊厳についての意識を高める努力をしている。入居者の方々に対しては、共生の意識をもって、自尊心を大切にされた対応を心がけている。介護や誘導の声かけは、声の大きさやタイミングなどに気をつけている。	○	◎	○	法人・事業所として、3か月に1回拘束虐待防止委員会を開催するとともに、職員は勉強会等で人権や尊厳などを学んでいる。また、職員は個々の意識を高めながら、利用者への声のかけ方やタイミングなどに配慮することを心がけた支援をしている。さらに、居室を訪問する際に、職員はノックをして、利用者に声をかけてから入室するとともに、入浴やトイレなどの個別の対応においても、プライバシーを守る体制を整えている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	入浴は個室なのでゆっくりと関わりながら行っている。トイレは居室についており、安心して使用して頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際は、どういった用事で入るのか説明している。また、本人が在室の際は、ノックをして声をかけてから入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法令順守の勉強会を実施しており理解している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	出来る事、得意な事を生かせる場を作っているが、不十分。お互いに「ありがとう」という言葉が日常的によく聞かれている。タオルを干す重む手伝いを願っている。	/	/	/	1番地ユニットでは、洗濯物干しやたみ、新聞紙のゴミ箱折り、おむつ等入れるナイロン袋を広げるなど、職員は利用者にしてできることを手伝ってもらうとともに、利用者からも家事等の手伝いに対して、声をかけ合う関係性が築かれている。2番地ユニットでは、重度化等に伴い、利用者ができることが少なくなってきており、洗濯物干しやたみなどを手伝ってもらい、職員から感謝の言葉を伝えている。また、家事などの作業や食事の際に、職員は配席を考慮するなど、利用者同士がトラブルにならないような工夫をしている。さらに、脳トレや趣味的活動などを行う中で、職員は声をかけて、相互に頑張りながら行うことを確認し合うなど、活き活きとした生活にも繋がっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解できている。そうなれるよう、努力しているが、認知症の進行の為、他者との関係づくりが難しくなっている現状もある。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	おのおのの性格や生活歴を把握して、主導権を渡しつつトラブルにならないよう声掛けをしたり、距離感を調節したりしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	善悪ではなく、可能なら相手の気持ちや状態を伝え理解を求める。難しいようなら、しばらく物理的に距離を置くなどで気持ちが収まるのを待つ等ケースバイケースで対応する。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時の聞き取りで確認しているが、細かいところまでは十分かかっていない。個別外出の計画時などに確認していた。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会に来られる方との交流はあるが、ホームから出向くことは少ない。コロナの為、状況により、直接面会やタブレット等を使用した面会などを実施している。ただ、画面越しでは理解が難しい利用者の方も多い。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナの為、行事や個別の外出などは現在実施できていないが、個別で近所の散歩を実施したり、鯉のエサやりや畑やテラスでのプランター栽培の成長を見て楽しんだり、収穫するなどしている。重度の方も、車椅子での散歩や、外気浴なども実施している。	○	△	○	コロナ禍において、外出制限が設けられているものの、近隣の神社まで散歩したり、ドライブをして季節の花を見に出かけたりするなど、少しでも気分転換が図れるような外出支援にも取り組んでいる。また、中庭で外気浴をしたり、敷地内の畑で野菜づくりをしたり、プランターの鑑賞、鯉の餌やりなどを行い、楽しみが持てるような支援を取り入れている。さらに、重度な利用者と一緒に、車いすを活用して出かけるなど、屋外に出られるように心がけた支援にも取り組んでいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	盆踊りなど地域の行事に参加する際、協力を得ている。コロナの流行で現在は実施できていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の勉強会へ参加し知識の向上に努めている。日々の観察から、周辺症状が現れた時には、話し合いながら原因を究明し、安心して生活できるように取り組んでいる。また、困難事例カンファにて検討し、内容を周知している。	/	/	/	複合施設内の小規模特養に所属する作業療法士の協力を得ながら、歩行練習を行ったり、利用者ができる生活リハビリをしたり、脳トレや体操、口腔体操を取り入れるなど、利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。また、できる限り、利用者自身で行ってもらえるような配慮を行い、職員は見守りや待つ介護に努めている。さらに、職員は認知症の行動や心理症状などを勉強会等で学んで知識を習得するとともに、観察から得られた情報を分析しながら、より良いサービスが提供できるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや体操、散歩等を行い、今の機能が維持できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	出来るだけ自身で出来るよう、声掛け、見守りを行っているが、つい手を出してしまう場面が多い。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個性や能力を踏まえて、役割をお願いしている。	/	/	/	1番地ユニットでは、新聞紙折りや洗濯物たたみ、鯉の餌やり、配膳車を迎えに行く、下膳の手伝いなど、職員は声をかけて、他の利用者と一緒にいることができるよう支援している。また、2番地ユニットでは、利用者の高齢化や重度化に伴い、日常生活の中で洗濯物たたみなどのできる役割は少なくなってきているものの、口腔体操後に食事メニューを利用者から伝えてもらったり、縫物を依頼したりするなど、少しでも出番や役割を担ってもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	どの方も、何かしら得意な事や出来る事が、他者からも認知されるよう声掛けや感謝の意を表現するようにしている。コロナの為、外出の機会は限られている。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	家族が本人の好みに合うであろう衣類や小物を準備されているので、それを踏まえて理解している。				高齢化や重度化に伴い、自分で服を選んで着替えることのできる利用者が減少し、職員が介助する機会が多くなってきている。また、自宅で使用していた物を持ち込むほか、慣れ親しんだ好みの持ち物を使用して、職員は利用者が気分よく生活が送れるような配慮をしている。さらに、食事中にエプロンを使用して、食べこぼしで衣服が汚れないようにしているほか、食事やトイレなどで汚れた場合には、職員がさりげなく居室へ誘い、着替えてもらうなどのフォローをしている。加えて、月1回訪問内容を活用して、髪型を整えることができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	○	自宅ですべてのものを持ってこられており、本人の好みのもと思われる。こだわりのある方には、その都度対応している。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に相談しながら行っている。決められない場合は二者択一など、決めやすいよう対応しているが認知症の進行の為それも難しい場合もある。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れがあれば、自室で新しいものと交換している。不都合なことは、他の入居者が気が付かないよう、そっと対応している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば対応している。現在は訪問理美容を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問理容を利用して髪型を整えたり、本人に似あう服を準備するなどして対応している。			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおよそ理解している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおよそ理解している。				管理栄養士が献立を立て、複合施設の厨房で調理した食事が届けられ、利用者に提供をしている。食事の味付けや柔らかさなどに関して、利用者から意見の聞き取りをしながら、献立作成や食材選び、調理方法などを給食委員会の中で検討を行い、より良い食事提供を目指した努力をしている。コロナ禍において、利用者と一緒に買い物に出かけることはできていないが、おやつ作りやきゅうりの塩みなどを一緒に作り、利用者には喜ばれている。また、食事の際に、感染対策で職員は見守りやサポートを行い、現在は別々に食事を摂っている。毎月誕生日の際に、イベント食が提供されるほか、季節の行事食も提供されるなど、食事が楽しみにするような工夫をしている。コロナ禍以前は、カレーの日を設けて、職員と一緒に調理をすることもあったが、現在は実施できていない。さらに、食事の形状は、普通食や柔らか食、ソフト食があり、手の込んだ調理でも食べやすさが実現している。加えて、湯飲みやコップは、馴染みの物を使用するほか、小さな器も使用している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	施設で作った食事を提供しているが、おやつや食事イベントなどで一緒に準備・調理をしている。コロナの流行で現在は実施できていない。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	以前はおやつやカレー作りを一緒に行ってしたが、コロナの流行以降は実施できていない。また、認知症の進行、重度の入居者が増えた事も実施できない要因の一つとなっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	おおよそ把握している。苦手なものは替わりのものを提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	毎月の誕生日の祝い膳として、ちらしずしが出たり、季節ごとの行事食が提供されている。流しそうめん、芋炊き、鍋などできる範囲で季節を感じ取れる取り組みを行っている。ユニットで出来る範囲でおやつは果物やいも、和菓子など季節感のあるものを提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	施設として対応している。普通食、柔らか食、ソフト食があり入居者の嚥下状態や体調に合わせて提供している。低栄養の方にはエンジョイゼリーなどの補助食が提供される。盛り付けもメニューによって工夫してもらっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	湯飲みコップは個人の物を使用している。他は厨房がある為施設の物を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナの為、一緒に飲食をすることは控えている。介助の入居者が増えた事、食事中の見守り、食後の対応などが必要なため一緒に食事をするのは難しい状況となっている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	コロナの流行の為現在は自粛しているが、流行前はカレー作りやおやつ作りを通して実施していた。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	施設食の為、栄養士が管理している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分が進まない入居者には施設で作るゼリーで代替したり、栄養状態に合わせて、個別で補食を提供するなどして対応している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立や調理については栄養士が管理しているが、毎月給食委員会を開催しており、栄養士と職員が食事について話し合う場を設けている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	選食の場合は冷蔵庫で保管後、2時間を限度とする、毎週冷蔵庫の掃除、消毒をするなどルールを決めて衛生管理を実施している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会等に参加し理解している。				職員は施設内研修等で学び、口腔ケアの重要性を理解しているほか、起床時と毎食後に、利用者は口腔ケアを実施している。また、歯磨きが困難な利用者には、リステインを使用してスポンジブラシで拭き取るなどの工夫を行い、清潔保持に努めている。さらに、歯みがきの仕上げ等の機会に、歯を含めた口腔内の状態を観察するとともに、状況に応じて、早期の歯科医の往診に繋げている。加えて、令和4年10月には、歯科衛生士による全ての利用者の口腔内チェックを計画している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	仕上げ磨きの時に確認するよう気を付けているが、隅々まで把握するのは難しい状態である。臭いや出血などがあれば特に注意して、必要であれば訪問歯科を利用している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修や勉強会等で学んでいる。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日1回の消毒、毎食後の洗浄を支援している。難しい入居者については、夜間義歯を預かり管理している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	△	起床時、毎食後の歯磨きを助行している。うがいが難しい入居者にはリステインを使用し、スポンジブラシでふき取るようにしている。自身で歯磨きをされている方の、口腔内の観察や記録は不十分。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	施設内の勉強会や外部研修に参加し、理解を深める努力をしている。				高齢化や重度化に伴い、事業所の全ての利用者が紙パンツを使用している。また、併用してパッドなどの排泄用品を使用する利用者もいるものの、居室内にあるトイレだけに限らず、夜間にポータブルトイレを活用するなど、職員は利用者へ声をかけて、全ての利用者へトイレ誘導などの支援が行われている。さらに、利用者一人ひとりの排泄リズムを総合記録シートに記録を残し、職員は利用者のタイミングに合わせたトイレ誘導や介助を心がけている。中には、下剤を服用している利用者があるものの、ファイバーやオリーブオイルなどの食品を取り入れたり、水分摂取の管理や運動、腹部マッサージを行ったりするなど、職員はできる限り自然排便が行えるよう心がけた支援をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している。不穏時は、排便状況との関連を意識しながら、ケアにあたっている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録に残すことで把握できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日中と夜間を使い分けたり、体調によって変更するなどしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレの場所が分からない等、認知の為支障となることがあれば、表情や様子をみて誘導するなどしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	食事や散歩の前など、本人のタイミングに合わせて声掛け誘導を実施している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	状態に合わせて職員が家族や本人に提案し了解を得ている。使用済みパッドの扱いなどから、衛生面を考慮し、職員主導で選定する場合もある。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	実施している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ファイバーやオリーブオイルの飲用、水分摂取、運動、腹部マッサージなど実施している。入院後オムツだった方も、ポータブルトイレでの排泄に移行している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	おおよそは決まっているが、希望があれば応じている。	◎		○	週2回、利用者は入浴することができる。重度な利用者も多くなってきており、複合施設の2階部分にある小規模特養の機械浴槽を活用するほか、リフト浴を活用して、職員は安心安全な入浴を支援している。また、利用者が希望する入浴の時間帯や湯船に浸かる長さ、介助の仕方等の希望に応じながら、職員は柔軟な対応をしている。さらに、入浴する気分でない利用者には、時間帯や日にちを替えて職員が声かけをするなどのフレキシブルな対応を行い、入浴してもらうことができている。加えて、浴室等には床暖房が設置されており、利用者は寒さなどの温度差を感じることなく、入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯かけんや入浴時間など本人に合わせて実施している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗体、洗髪、浴槽へのまたぎなど、出来る範囲で自身で行ってもらっている。特浴や機械浴も活用している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人が納得できるような言葉がけをして誘っている。拒否が強い場合は、時間をずらしたり、日をかえたりしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定している。入浴後はバイタルは測定していないが、目視で体調に変化が無いが確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	木材を使用した、温もりのある環境が整えられている。利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾を工夫している。	◎	◎	○	共有空間にはソファが置かれ、利用者はテレビを見たり、本棚にある本を読んだり、脳トレをするなど、思い思いの場所で日中過ごす利用者も多い。また、中庭に出て野菜づくりをしたり、鯉に餌をあげたりする利用者もいる。天井や壁には、利用者と一緒で作成した季節を感じることもできる。さらに、作業やレクリエーション、食事などの状況に応じて、テーブルの配置を変更するなどの工夫をしている。加えて、加湿器やオゾン発生装置などの空調にも配慮されているとともに、冬には床暖房の設備なども整い、快適な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	職員が中心になっているが、毎日日課として掃除をして清潔を保っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	利用者とともに作成した飾り物を飾り、季節に応じて装飾や季節の花を飾っている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う入居者同士で過ごしてもらったり、個別のテーブルで好きなレクに取り組みてもらっている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使っていた家具や装飾品、写真などを持参利用している。入居後は家族が折に触れ持参された花や写真を部屋に飾っている。	○		○	居室には、ベッドや床頭台、エアコン、トイレ、洗面台等が設置され、他の利用者の目を気にすることなく、トイレへ行くこともできる。また、利用者自身が自宅で使用していた家具や装飾品のほか、家族写真やテレビを持ち込むなど、一人ひとりに合わせた落ち着いた居心地の良い空間づくりを実現している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	必要に応じて、ベッドでの立ち上がりのためのL字バーや夜間の動向を把握するためのセンサーなどを設置して、自分でトイレに行けるように配慮して見守りを行っている。リビングの座席・椅子や居室入口に目印や表札をつけることで、混乱しないように援助している。			○	建物はバリアフリーの構造で広く、利用者の動線が確保されている。また、居室のドア付近には暖簾が掛けられているほか、花飾りをつける等の工夫を行い、利用者が自室を認識しやすいようになっている。さらに、居室内には起き上がりや立ち上がりに関するセンサーが設置されているほか、ベッドからの立ち上がりに使用する介助バーなどを活用することで、利用者が安心安全に生活を送れるような工夫が行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	ぬり絵など、個別の作品を綴ったファイルを作成し、リビングに保管している。収集癖のある利用者の方がおり、さりげなく物品を配置することが困難である。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけていなかったが、現在は徘徊で目が離せない利用者もいる為、鍵をしめている。	◎	◎	△	職員は、勉強会等で鍵をかけることの弊害を学び、理解をしている。複合施設の共用玄関には、日中に施錠をしておらず、来訪者等の出入りをセンサーチャイムで把握し、事務所の職員に対応してもらっている。現在、1番地ユニットには、目が離せない不穏な利用者があり、ユニットの入り口等の鍵をかける状況となっている。また、職員は鍵の位置を見えないようにしたり、座席の配置を変更したりするなどの工夫を行っているものの、進展が見られないため、今後は、利用者がグループホームで生活を送る意義が感じられるような関わりがもてるような支援が行われることを期待したい。さらに、2番地ユニットは、日中にユニット等の入り口を施錠はしておらず、夜間のみ防犯対策で施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族の理解を得ているが、現在は徘徊で目が離せない利用者もいる為、鍵をしめている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前のアセスメントシートにより、把握するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	総合記録シートを活用し、記録をこまめにとっており、異常の早期発見につとめている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師に健康面での相談はいつでもできる。夜間もオンコール体制がきちんととれている。週ごとの振り返り(ダブルチェック)を看護師と行い、重度化の防止につとめている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医がある場合は、家族の意向等伺い希望する病院への受診を継続している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医がある場合は、家族の意向等伺い希望する病院への受診を継続している。必要に応じて、入居者の状態を伝える等して関係を築いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	実施できている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	実施できている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	実施できている。看護師が日頃から密に病院側と連絡をとっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何でも相談できる関係が築けている。また、看護師の方からも記録を確認し、情報を収集している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間のオンコール体制がきちんととれている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護師が毎日職員からの聞き取りと、入居者の健康状態を確認しにユニットまで足を運んでおり、体調に異常があった場合は早期発見に努め、主治医へ連絡をしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の種類等は把握しているが、副作用等については十分理解できていない。本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬を防ぐためのマニュアルを作り、それに沿って服薬介助を行っている。必ず2人でチェックを行い薬袋の確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態に変化や不調の兆しがあれば随時看護師に報告し相談している。必要があれば、主治医に連絡して指示を仰いでいる。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した時点で家族に現時点での体調について、今後たどるであろう経過と家族の以降の確認をとっている。新しく入居される方に関しては、入所時に説明するようにしている。				事業所には、「看取り介護に関する指針」や「重度化した場合の対応に係る指針」があり、入居時に対応できることを説明するとともに、段階に応じて、再度説明をしている。また、複数の医師との連携があるほか、小規模特養の看護師の協力体制も整い、利用者や家族、職員には安心感があり、今までに数名の看取り介護も経験している。さらに、重度化した場合や看取りの状態となった場合には、医師や看護師を交えて家族に説明するとともに、専門職を交えてカンファレンスを行い、方針を共有してチーム体制で支援をしている。加えて、職員への看取りなどの十分な教育も行われ、職員の不安や負担軽減にも努めることができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居者が看取りになった時点でカンファレンスを行い、家族、各専門職で今後の方針を話し合い情報を共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の不安や疑問にはその都度寄り添い思いを共有しつつ、支援の方向性や限界を見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	実施できている。入所時にも説明しているがその都度、家族と話し合いをして理解を得る努力をしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	実施できている。看護師が医療の窓口となり、必要に応じて主治医と連携をとっている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	実施できている。家族には定期的に様子を知らせる等して、心の準備ができるよう、また不安や悲しい気持ちに寄り添うよう配慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修や定期的な勉強会で、勉強している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルが準備されている。対応方法については、時期ごとに再確認をしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	朝礼や委員会で報告し、周知するようにしている。				
		d	職員は手洗いとうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	実施できている。手洗い、うがいに加え出勤の前には検温して体調確認を行っている。面会の家族についても同様で、チェック表の記入、検温を実施してもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に、利用者と一緒にイベント時や普段の様子などをお話するようにしている。	/	/	/	コロナ禍において、面会制限が設けられており、家族が来訪する機会は少なくなっているものの、散歩や病院受診時などの際に、家族と会う機会があるほか、事業所では、玄関先や窓越しでの面会を可能としている。コロナ禍以前は、年1回家族会を開催し、家族同士の交流や意見交換を行うことができていたものの、開催を自粛している。また、隔月で「ほのぼの通信」を発行するほか、写真等を送付して、利用者の日々の様子を家族に伝えている。さらに、SNSのインスタグラムを活用して、利用者の写真を配信している。加えて、面会のない家族には、職員から電話連絡時を活用して、利用者の生活状況を伝えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	散歩や受診外出などで協力していただいている。個別の外出では、ご家族にも参加の有無を確認している。コロナの為、家族会が実施できていない。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	隔月で「ほのぼの通信」を作成し、送付している。年に一度、家族会を行う。現在はコロナの為未実施。面会時には写真なども見ていただきながら、行事等での様子をお伝えしている。希望する家族には、プリントした写真をお渡ししている。インスタグラムにも掲載している。	○	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	支援するよう心掛けている。認知症の為分がなくなること、出来なくなったこと、本人の家族への思いなど機会があれば伝えるようにしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	外出行事や、費用の掛かるイベント参加などは、都度ご家族に確認をしている	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後の起こりうるリスクについては、できるだけ事前にお伝えするようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には入居者と一緒にイベント時や普段の様子などを伝えている。お茶の提供などもしていたが、現在はコロナの為実施していない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	出来るだけわかりやすくお伝えできるようにしている。必要に応じて文書を送っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	希望があれば対応している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	設立段階から、説明や理解を図っている。	/	○	/	コロナ禍以前は、複合施設の夏祭りに地域住民が参加したり、複合施設内にある地域交流サロンを活用して、地域の高齢者が参加できる地域サロンを開催したり、フラダンスなどのボランティアを受け入れるなど、交流できる機会が多くあった。コロナ禍において、地域行事等への参加する機会はほとんどないものの、管理者は、今後落ち着いた段階で、行事等への参加を予定している。また、近隣にある障がい者施設の「なかよし村」との交流もできていたものの、現在は交流を自粛している。さらに、複合施設の前は、小中学生等の通学路になっており、学生や近隣住民と挨拶を交わしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	普段からあいさつなどには気を付け、お祭りや盆踊りなどには利用者と一緒に参加させていただいているが、今年はコロナの為実施できていない。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	なにかあった時には、支援して下さる方もたくさんおられると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	以前は民生委員、ボランティアの方のほか、地域の方も面会に来てくださっていたが、今年はコロナの為来訪はない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	あいさつ程度のお付き合いとなっている。コロナのこともあまりあまり関係性は深まっていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	コロナ流行の為現在は自粛しているが、フラダンスやカラオケ等のイベント訪問に参加させていただいていた。地域施設(なかよし村、はばたき園など)とも交流しており、バザーなどのお誘いを受けている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣施設のイベント・盆踊りなどに参加させていただくこともある。外出等で地域のお店にも協力していただいている。なかよし村や訪問喫茶が来られた時は、活用しているが今年はコロナの為実施出来ていない。職員のみであるが、地域の防災訓練に参加している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	利用者の参加はないが、家族や地域の方には参加してもらっていたがコロナの為、書面での開催となっている。	△	/	○	運営推進会議は、市担当者や社会福祉協議会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員、家族等の参加を得て開催している。コロナ禍において、現在は書面開催となっており、様々な意見を聞きながら、改善に努めている。また、会議の中で、外部評価の結果等を報告している。管理者は、コロナ禍の影響が改善された際には、集合形式での会議開催を考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	自己評価・外部評価の結果を含め、運営推進会議で報告している。現在文書開催であるが、アンケートを実施し、意見等をまとめて公表している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	コロナ流行の為現在は書面を送付しての書類会議となっている。流行前はリフトを使用でのケア方法の説明をしたり、入居者や職員と意見交換の茶話会、芋の苗植え、フラワーアレンジメントなどを実施している。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念については、職員会などで重ねて確認をするようにしている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ご家族には、入所時・家族会などで説明させていただいている。利用者・地域の方には、あまりかしまっては話できていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基礎介護勉強会等を通じて、内部研修は計画的に実施するようにしている。外部研修も、偏りがないように配慮しながら、内容に応じて参加している。	/	/	/	法人独自の基礎介護テキストを作成して、新人や中途採用の職員教育に活用するとともに、職場内OJTにより、先輩職員の指導を受けながら、認知症介護の実践を積み重ねている。法人として、計画された施設内研修会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。また、日々管理者は現場で職員と一緒に働く中で、介護職員等から話を聞いているほか、いつでも相談に応じる姿勢で臨んでいる。さらに、管理者は、年2回職員と個別面談を行うほか、新人職員には、こまめな面談を重ねながら、仕事に関する相談を聞き取るとともに、アドバイスしている。加えて、法人として、年1回ストレスチェックを行う仕組みを導入されているほか、外部の「こころ塾」への相談体制や研修も行われ、職員のストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	経験のある職員が多いが、新人職員にはOJTを通じて、計画的に育成している。開設以来、退職者は一人もいない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境・条件の整備はできている。各自の向上心までは持っていないように感じる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会で、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。現在コロナの為、会自体が実施できていないが、DVDを配布していただき、ユニット会の中で観ていただくなどしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	こころ塾の活用などで、ストレス軽減にとりくんでいる。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、不適切ケア及び、それらを発見した場合の対応方法などについても周知している。	/	/	◎	複合施設として、他部門と一緒に3か月に1回拘束虐待防止委員会を開催して話し合いをしているほか、年2回虐待や不適切なケアの防止などの勉強会を行い、職員は学んで理解している。また、不適切ケア自己点検チェックシートに職員が記入して振り返りを行うとともに、委員が点検結果を取りまとめて、グレーゾーンの対応を話し合うなど、職員がお互いに意識し合い、注意喚起や再発防止に繋がる仕組みづくりができている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者等に伝えて、該当職員に確認して指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	実施できている。毎月、ユニット会を実施してケアについて話し合いをしている他、日頃から気が付いたことを話し合えるような環境を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	実施できている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。ユニット会などで、実際の事例を話し合うこともある。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	いまのところ、そのような要望はほとんどみられないが、実際に要望があった際には、きちんと対応していきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	普段の仕事の中では馴染みがうすく、理解するのは難しい。いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	意識不明等の急変に対してのマニュアルはあり、全体に周知しているが、怪我等個別のマニュアルはない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初任者研修で勉強した。消防署職員の救命講習(内部研修)にも、交代で職員が参加していく。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットとも整備されており、速やかに記入ができています。ただ、内容の閲覧までで、十分な検討までできていない。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	実施している。センサーマットや緩衝マットなど使用したり、歩行が不安定な方には歩行器を使用する、歩行時は見守り、手引きをするなど実施している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを整備している。いまのところ苦情はまだでていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	いまのところ苦情はまだでていないが、実際に苦情が寄せられた場合は、速やかに対応していきたい。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	いまのところ苦情はまだでていないが、実際に苦情が寄せられた場合は、速やかに対応していきたい。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	○		○	日々の生活におけるケアの場面等の中で、職員は利用者から意見や思いを聞き取り、可能な範囲で柔軟な対応をしている。また、家族からは、面会の機会や電話を通して、意見や要望の聞き取りをしている。さらに、管理者は普段の業務を一緒に行うことで、職員へ話しかけて意見や要望などの聞き取りをするほか、相談に応じるなどの姿勢があり、職員から多くの意見や提案が出されている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初だけしか情報提供できていない				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	機会を作るようにしている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	現場に入り、実際のケアにあたりながら、職員とも意見交換や指導を行っている			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	自己評価は数人の職員で行った。実施後の振り返りは全員に周知した。				外部評価の自己評価は、リーダーを中心にユニット毎に作成しているものの、全ての職員の意見までは聞けていない。昨年度に立てた目標達成計画は、コロナ禍において、十分に組み立てていない項目があるものの、サービスの評価結果は、運営推進会議等を活用して、報告することができている。また、職員にはユニット会議等を活用して、評価結果等を伝えることができている。さらに、運営推進会議が書面開催となっているため、集合形式での様々な意見交換や、利用者の様子、事業所の取組みを直接報告する機会がないため、家族からの運営に関する意見や要望は少ない状況となっている。今後は、運営推進会議の内容等についても、家族会等を活用して幅広く家族に報告を行い、意見や要望が出されることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成しているが、今回、取り組みが不十分であった。全体への周知についても不十分。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族会や運営推進会議で報告し、実際に取り組んでいる。今年は、コロナ流行の為、家族会を実施できていない。	△	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	家族会や運営推進会議で報告し、実際に取り組んでいる。今年は、コロナ流行の為、家族会を実施できていない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災時の対応マニュアルは作成している。そのマニュアルに準じて、他の災害時にも行動できるように伝えていきたい。火災・地震の防災訓練を実施した。				施設業務マニュアルの中に、消防・防災計画を整備するとともに、消防署の協力を得て、年2回複合施設全体で避難訓練等を実施している。また、コロナ対策を含めた事業継続計画(BCP)を策定するとともに、複合施設は、市行政から福祉避難所の指定を受けて、食料などの備蓄品を用意している。コロナ禍において、集合形式の運営推進会議が開催されていないこともあり、地域との防災に関する話し合いや合同の防災訓練の実施までには至っていない。利用者家族等アンケートの結果から、災害の備えに対して十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議や家族会等を活用して、防災計画や防災への取り組みを周知して話し合ったり、コロナ禍の収束後には、家族や地域住民に防災訓練の参加を呼びかけたり、ほのぼの通信を活用して、避難訓練の様子を掲載したりするなど、安心安全に繋がる周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災・地震の避難訓練を行っている。また夜間の通報訓練などを通して、行動マニュアルを周知するようにしている				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	ガリラヤ久米全体で、物品の用意・点検を行っている				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練で、消防署の協力を得て、指導等いただいているが、地域住民や他の事業所との訓練や話し合いはできていない	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同上。合同訓練に参加した。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	グループホーム単体での情報発信や啓発活動はできていない				法人のホームページで広報啓発を行うとともに、ブログやインスタグラム等を活用して積極的な情報発信が行われている。また、認知症に関する相談は、複合施設内にある居宅介護支援事業所で受けて対応することが多いものの、相談が寄せられた場合には、見学対応を行うとともに、適切な相談窓口に繋いでいる。コロナ禍以前は、複合施設の地域交流サロンを、地域の集まりなどに活用してもらうことができていた。さらに、学生の実習や中学生の職場体験等の受け入れにも対応をしている。加えて、小野・久米地区のグループホーム連絡会に参画するとともに、研修や会議に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センター、他の事業所等との連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	居宅支援事業所で支援を行っている。グループホームでは、入所希望者の見学や相談支援を行っている		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループホームとしては場所の提供等できていないが、地域サロンを活用していただいている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	東温市のガリラヤ荘と連携して、学生等の実習受け入れに協力している。中学生の職場体験にも協力した。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	グループホーム交流会で、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。なかよし村の訪問販売などに参加させていただいている。地域の盆踊りや、お祭りの訪問に参加し楽しませていただいている。今年はコロナの為参加できていない				

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 9 月 29 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890101516
事業所名	グループホーム ガリラヤ久米
(ユニット名)	西通り1丁目2番地
記入者(管理者)	
氏名	上田 稔
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 『今、ここで生きている人々に寄り添うことを使命とする』</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①外部評価の自己評価については、管理者や計画作成担当者が中心になり、一般職員には意見を聞いていない。また、結果について、フィードバックが出来ていない。 ・今回の自己評価も、一般職員に参加してもらうことは難しかった。 ・前回の結果については、ユニット会で簡単に報告を行った。 ②消防訓練を実施しているが、それを家族や地域に周知できていない。 ・避難訓練の写真を、ほのぼの通信(令和3年12月号)に掲載し、ご家族に確認していただいた。 ③口腔ケアについて、ご自分で歯磨きをされている利用者に関しては、口腔内の様子を観察できていない。 ・全員の口腔内の確認と記録をする予定であったが、実施できていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市の郊外の田畑がある緑豊かな地域に立地する事業所は、小規模介護老人福祉施設や介護付き有料老人ホーム、デイサービス等が併設した複合施設の1階部分にある。「のんびりと穏やかに、安心して過ごせる空間づくり」の考えのもと、広い建物で、敷地内には草木や花も多く、開放的な空間となっている。コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられているものの、窓越しや仕切りを活用した面会に対応したり、感染状況を見計らいながら、事業所周辺を散歩したり、ドライブをして季節の花を見に行くなど、少しでも屋外へ出て、気分転換が図れるような外出支援にも取り組んでいる。また、利用者の笑顔を引き出すことに着目して、法人独自の「トータルケア・アセスメントシート」や「総合記録シート」を活用したアセスメントに取り組むとともに、日々利用者によってできることをしてもらいながら、活き活きとした生活が送れている利用者も多い。さらに、情報共有やカンファレンスにも力を入れており、ユニット会議等を活用して、職員間で話し合うことも多く、より良いサービス提供が行われるよう努めている。加えて、法人・事業所として、働きやすい職場づくりを目指しながら、管理者と法人の代表者等がグループホーム内で、職員や利用者と一緒に語るなどの支援も行われている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段の会話の中から、今までの生活の様子や思い、価値観を知るようにしている。また、折にふれ、希望や気持ちを伺うようにしている。	◎	/	△	施設独自の「トータルケア・アセスメントシート」を活用して、3か月に1回、職員は利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。新たな情報が得られた場合には、色を変えて追記するほか、年4回行うアセスメント情報を更新するなど、1枚の用紙で分かるようになっている。また、入居初期には、職員が利用者や家族から情報を聞くほか、入居後に、介護職員等がその時々での思いなどの情報の聞き取りをしている。さらに、聞き取った思いや意向に関する情報が記載されていない部分もあり、暮らしの中での状態の変化や利用者の笑顔、思いなどの情報がアセスメントシートに記録され、より良い情報収集が行われることを期待したい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知の為意向の確認が難しい場合は、生活歴や職歴、本人の性格を考慮しつつ、本人の心地よい状態や環境は何かという視点に立てて検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に話しをして、お若いころの様子や家族との関係性、大切にしてきた思い出など伺っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	日々の生活の様子や変わった事は記録に残し、言葉で表現が難しい方の思いをくみ取るよう努力している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の表情や言葉から思いをくみ取り対応するよう努めている。また、スタッフ間でディスカッションして、その人を多角的な視点から知る事で新たな気づきを得ている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時のアセスメントでおおよそ把握している。面会時に家族などから、父、母、夫、妻としての様子や頑張ってきたことなどお聞きしている。	/	/	○	入居申込書調査票を活用して、入居前の暮らしに関する情報を把握している。また、「トータルケア・アセスメントシート」を活用して、職員は利用者や家族等から情報を聞くほか、入居後の生活や基本動作などに関する情報を収集を行い、記録して把握している。さらに、睡眠・食事・排泄・バイタルサイン・生活リズムなどの情報は、「総合記録シート」に記載して、職員間で情報を共有している。加えて、他の介護日誌や申し送りノートを活用して、情報共有を図っている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活歴や職歴、趣味などからある程度は把握している。認知の進行に伴い、出来なくなったことも多くなっているが、出来そうなことを実際に試しながら把握するようにしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の様子観察やカンファレンスで生活のリズムは入居者ごとに把握できている。自分や他の職員の関わりの中で、状態変化があれば情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のユニット会やカンファレンス以外にもその都度、話し合い検討している。家族も何かあれば知らせてくれる。困難事例カンファにて、アドバイスもらった際は、内容を職員に周知している。	/	/	○	毎月ユニット会議を開催し、利用者に関する検討を行うほか、必要に応じて職員間で話し合いをしている。3か月に1回カンファレンスを実施する際に、参加できない職員には、事前に意見を聞くほか、アセスメントシート等の情報を確認しながら話し合い、より良い介護計画に繋げている。また、コロナ禍において、家族が参加したカンファレンスの開催はできないものの、面会の機会などを通して情報を聞き、カンファレンス内で伝えて、計画の内容に反映している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ユニット会やカンファレンスで検討した結果、課題となる事柄を導き出している。普段から職員間の情報交換を行っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の生活スタイルやリズム、希望を考慮して介護計画を作成している。また、家族の意向にも、可能な限り対応するようになっている。	/	/	/	コロナ禍において、介護計画に関する話し合いやカンファレンスには、家族や外部関係者の参加は難しいものの、面会の機会などを通して意見や要望を聞いている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から思いや希望を聞いている。さらに、カンファレンスやユニット会議などを活用して、アセスメント情報や把握した情報をもとに、職員間で意見を出し合いながら話し合い、介護支援専門員が取りまとめた介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	面会に来られた時に、生活の様子や本人の言葉等を伝えて家族からも提案や協力を得るようにしている。入居者には理解度や性格等に配慮しながら話している。スタッフ間ではノートや口頭で情報を共有し合いながらそれぞれの意見やアイデアを出し合っている。	/	○	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居者のベースに合わせたケアを心掛けている。看取りの為臥床して過ごす事が多い方には、好きな音楽やラジオなどを聴いていただいている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力については難しい家庭もあるが、協力が可能な家族に対しては面会や受診を通して協力をお願いしている。地域との協力体制は現状難しく計画の中には盛り込めていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス等で情報共有しており、内容についても確認している。ケアプランをファイルして共有している。	/	/	/	○ 介護計画のケア内容は、1週間利用できる「総合記録シート」に記載されているほか、ケアの実践の有無が確認できるよう工夫されている。また、シートには、利用者の笑顔を引き出すためのポイント欄が設けられているものの、ほとんどの記載が行われていないほか、ケアの実践による利用者の様子の記載も少ない状況となっている。今後は、具体的な会話内容や表情などを意識しながら記録に残せるよう職員間で話し合うとともに、記録された内容が、次回の計画の実践等に活かされることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	状況確認については、特に変わった事があれば記録に残している。早出者がケアプランが実践できたか○×でチェックしている。具体的な記録は不十分である。介護計画を実践する上で難しかったり、変更が必要であればその都度、話し合っている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	通常は3か月毎に見直しを行っている。入院など特別に状態に変わりがあれば3か月以内であっても見直しを実施している。	/	/	◎	毎月実施するユニット会議の中でカンファレンスを行い、「トータルケア・アセスメントシート」などの情報を活用しながら、利用者の現状を確認して評価を行うとともに、3か月に1回行う介護計画の見直しに繋げている。また、利用者の状況に応じて、適宜介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のユニット会やカンファレンス以外にもその都度、話し合いの機会を持ち現状を確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	退院後、また心身の状態に大きな変化があった場合には見直しを行っている。必要に応じてカンファレンスを開催しており、現状にあったケアプランを作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	問題が起きた時にはその都度スタッフ間で話し合いを行い、ケアの方向性や方法を検討している。それぞれが意見を出し合い解決方法を導きだしている。	/	/	◎	毎月ユニット会議を開催し、管理者が司会を行い、多職種で活発な話し合いをしている。また、職員が会議に参加しやすいように、開催日や時間帯を決めて、90分程度の会議を実施するとともに、参加できない職員には、事前に意見を聞くほか、会議では職員間で意見を出し合いながら、話し合いをしている。さらに、会議に参加できない職員には、会議の終了後に会議録を確認してもらいながら、口頭で情報伝達をしている。加えて、会議では、管理者や介護支援専門員等から、計画内容を職員へ問いかけて意見を聞くなど、チームで考えることを心がけている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ同士で些細な事でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。お互いの意見を尊重し、相手の話を聞くようにする姿勢を持っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	ユニット会を毎月実施している。業務や行事の都合で開催が難しいと思われる時は、その都度日程調整を行い周知している。会議録を回収している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員が出動した際に早出がその日の申し送りを。また、大切な内容は日誌や記録シートで確認し、翌日以降の出動者も内容が把握できるようにしている。	◎	/	◎	「総合記録シート」を活用して、毎日の利用者一人ひとりの生活状況等の確認を行い、職員間で情報の把握に努めている。また、介護日誌で、利用者に関する日々の状況を伝えるとともに、連絡ノートを活用してケアの変更点を伝えるなど、用途を使い分けて、分かりやすく活用できるようにしている。さらに、職員は出勤時に連絡ノート等に確認して押印を行うとともに、日々の口頭での申し送りによる伝達などを加えることで、職員間の情報の漏れがないようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	認知の為、主体的に何かしたいという返答はほぼ聞かれない為、職員主導で体操やレクを実施する事が多い。～したいと言われる方については、本人の希望が叶うよう対応している。	/	/	/	○ 入浴時の着る衣服、飲み物の温度や種類など、職員は利用者実際に見て確認してもらいながら、自分で選べるよう支援している。また、職員は利用者が選択しやすいように、二者択一にするなどの工夫もしている。日々の生活における趣味活動や脳トレなどの実施する際にも、利用者が希望するものを提供し、楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、起床や食事の時間なども、利用者の希望や状況に応じて対応をすることで、職員は利用者一人ひとりの生活のペースを崩さないような支援を心がけている。加えて、日々の観察の中で、職員は利用者の思いなどを想像しながら、声かけや準備を心がけた支援を実践している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できるような問いかけは出来る範囲で実施している。問いかけても「分かん」と言われる方もいるが、二者択一にするなど、なるべく自己決定できるような問いかけにしている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	起床や食事の時間など、ある程度決まったスケジュールはあるが、体調やその時々状態、気分や時間を問わず等の対応をしている。本人が気分よく生活できるように、生活リズムや時間配分を考慮している。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	入居者に接する時は明るい表情や声を掛けている。また、一人一人の性格や好みを把握し、どのような対応が気分よく受け入れられるか考えながら接している。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や言葉、態度から気持ちを推察し、どうしたいのか伺いながら対応するよう掛けている。また、生活のパターンからおおよその検討を付け、トイレに誘導したり間食を準備など不安や不快な状態を長引かせないよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	拘束虐待委員会の活動を通して人権や尊厳についての意識を高める努力をしている。入居者の方々に対しては、共生の意識をもって、自尊心を大切にされた対応を心がけている。介護や誘導の声かけは、声の大きさやタイミングなどに気をつけている。	○	◎	○	法人・事業所として、3か月に1回拘束虐待防止委員会を開催するとともに、職員は勉強会等で人権や尊厳などを学んでいる。また、職員は個々の意識を高めながら、利用者への声のかけ方やタイミングなどに配慮することを心がけた支援をしている。さらに、居室を訪問する際に、職員はノックをして、利用者へ声をかけてから入室するとともに、入浴やトイレなどの個別の対応においても、プライバシーを守る体制を整えている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	入浴について希望があれば同性介助を行っている。トイレは各居室に設置されており、いつでも安心して使用してもらっている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入るときにはどのような用事で入るのか説明してから入室している。本人が在室の際にはノックをして声を掛けてから入室している。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	法令順守の勉強会を実施しており理解している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	入居者の方には、出来る事、得意な事をいかにせる場を作っている。洗濯物を干す、たたむ、ゴミ箱を折る、ナイロン袋を広げる等の作業を手伝っていただき、感謝の言葉をつたえている。				1番地ユニットでは、洗濯物干しやたたみ、新聞紙のゴミ箱折り、おむつ等入れるナイロン袋を広げるなど、職員は利用者にしてできることを手伝ってもらうとともに、利用者からも家事等の手伝いに対して、声をかけ合う関係性が築かれている。2番地ユニットでは、重度化等に伴い、利用者ができることが少なくなってきており、洗濯物干しやたたみなどを手伝ってもらい、職員から感謝の言葉を伝えている。また、家事などの作業や食事の際に、職員は配席を考慮するなど、利用者同士がトラブルにならないような工夫をしている。さらに、脳トレや趣味的活動などを行う中で、職員は声をかけて、相互に頑張りながら行うことを確認し合うなど、活き活きとした生活にも繋がっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	理解できている。難しい場合もあるが、利用者同士の関係性を大切にしながら、助言や援助を行うようにしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	おのおのの性格や認知の度合いを把握して、主導権を持たせつつトラブルにならないよう声掛けをしたり、距離感を調節している。その時々雰囲気やリビングで過ごしている方によって、座る場所を移動するなどして入居者同士の関係づくりをしている。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	善悪ではなく、お互いの気持ちや状態を伝え理解を求めている。難しいようなら、しばらく物理的に距離を置くなどして気持ちが収まるのを待つ等ケースバイケースで対応している。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時の聞き取りで確認しているが、細かいところまでは十分かかっていない。個別外出の計画時などに確認していた。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会に来られる方との交流はあるが、ホームから出向くことは少ない。コロナの為、状況により、直接面会やタブレット等を使用した面会などを実施している。ただ、画面越しでは理解が難しい利用者の方も多い。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナの為、行事や個別の外出などは現在実施できていないが、個別で近所の散歩を実施したり、鯉のエサやりや畑やテラスでのプランター栽培の成長を見て楽しんだり、収穫するなどしている。重度の方も、車椅子での散歩や、外気浴なども実施している。	○	△	○	コロナ禍において、外出制限が設けられているものの、近隣の神社まで散歩したり、ドライブをして季節の花を見に出かけたりするなど、少しでも気分転換が図れるような外出支援にも取り組んでいる。また、中庭で外気浴をしたり、敷地内の畑で野菜づくりをしたり、プランターの鑑賞、鯉の餌やりなどを行い、楽しみが持てるような支援を取り入れている。さらに、重度な利用者と一緒に、車いすを活用して出かけるなど、屋外に出られるように心がけた支援にも取り組んでいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナの為自粛しているが、例年は地区の祭りに参加している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の勉強会へ参加し知識の向上に努めている。日々の観察から、周辺症状が現れた時には、話し合いながら原因を究明し、安心して生活できるように取り組んでいる。				複合施設内の小規模特養に所属する作業療法士の協力を得ながら、歩行練習を行ったり、利用者ができる生活リハビリをしたり、脳トレや体操、口腔体操を取り入れるなど、利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。また、できる限り、利用者自身で行ってもらえるような配慮を行い、職員は見守りや待つ介護に努めている。さらに、職員は認知症の行動や心理症状などを勉強会等で学んで知識を習得するとともに、観察から得られた情報を分析しながら、より良いサービスが提供できるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活リハビリや体操、散歩等を行い、現在の身体機能が維持できるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来るだけ自身でできるよう安全に注意しながら、声掛け、見守りを行っている。出来ていなくても、その場で注意や指摘をせず、後で本人が気づかないよう手直しするなどして、出来たという満足感に水を差さないようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個性や能力を踏まえて役割をお願いしている。				1番地ユニットでは、新聞紙折りや洗濯物たたみ、鯉の餌やり、配膳車を迎えに行く、下膳の手伝いなど、職員は声をかけて、他の利用者と一緒にすることができるよう支援している。また、2番地ユニットでは、利用者の高齢化や重度化に伴い、日常生活の中で洗濯物たたみなどのできる役割は少なくなってきているものの、口腔体操後に食事メニューを利用者から伝えてもらったり、縫物を依頼したりするなど、少しでも出番や役割を担ってもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	制作などは認知症のレベルに合わせて、それぞれ違う工程をお願いなどの配慮をしている。何かを一緒にする中で、めいめいの役割が出来ている。コロナの為、外出の機会は限られている。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	個人差があり、まったく頓着しない方もいるが、その人らしさという点を踏まえて対応している。				高齢化や重度化に伴い、自分で服を選んで着替えることのできる利用者が減少し、職員が介助する機会が多くなってきている。また、自宅で使用していた物を持ち込むほか、慣れ親しんだ好みの持ち物を使用して、職員は利用者が気分よく生活が送れるような配慮をしている。さらに、食事中にエプロンを使用して、食べこぼしで衣服が汚れないようにしているほか、食事やトイレなどで汚れた場合には、職員がさりげなく居室へ誘い、着替えてもらうなどのフォローをしている。加えて、月1回訪問内容を活用して、髪型を整えることができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	持ち物は自宅で作っていたものを持参されており、本人の好みの物と思われる。カットや毛染めめこだわりのある方には、希望があればその都度対応している。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に相談しながら決めている。決められない場合は二者択一など、本人が決めやすいように対応している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	衣類などに汚れがあれば、入室で新しいものと交換している。不都合なことは、他の入居者が気が付かないよう対応するよう心掛けている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	現在はコロナの流行の為、制限をしているが、希望があれば対応している。訪問理美容を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	認知症で自分で選べない方には、職員がその人らしい服装を選んで着てもらっている。			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおよそ理解できている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	おおよそ理解できている。				管理栄養士が献立を立て、複合施設の厨房で調理した食事が届けられ、利用者に提供をしている。食事の味付けや柔らかさなどに関して、利用者から意見の聞き取りをしながら、献立作成や食材選び、調理方法などを給食委員会の中で検討を行い、より良い食事提供を目指した努力をしている。コロナ禍において、利用者と一緒に買い物に出かけることはできていないが、おやつ作りやきゅうりの塩みなどを一緒に作り、利用者に喜ばれている。また、食事の際に、感染対策で職員は見守りやサポートを行い、現在は別々に食事を摂っている。毎月誕生日の際に、イベント食が提供されるほか、季節の行事食も提供されるなど、食事が楽しみにするような工夫をしている。コロナ禍以前は、カレーの日を設けて、職員と一緒に調理をすることもあったが、現在は実施できていない。さらに、食事の形状は、普通食や柔らか食、ソフト食があり、手の込んだ調理でも食べやすさが実現している。加えて、湯飲みやコップは、馴染みの物を使用するほか、小さな器も使用している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	施設食を提供しているが、ご飯はユニットで炊いている。コロナ流行の為に自粛しているが、入居者と毎月カレー作りをしたりしている。おやつを手作りするなどして、一緒に作る機会を大切にしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	施設食の為に、調理の工程はない。コップを洗ってもらったり、トレーを拭いてもらうなどは毎日実施している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	おおよそ把握できており、苦手なものは提供せず、代替のもので対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	毎月の誕生日の祝い膳として、ちらしずしが出たり、季節ごとの行事食が提供されている。流しそうめん、羊吹き、鍋などできる範囲で季節を感じ取れる取り組みを行っている。ユニットで出来る範囲でおやつは果物やいも、和菓子など季節感のあるものを提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	施設として対応している。普通食、柔らか食、ソフト食があり入居者の嚥下状態や体調に合わせて提供している。低栄養の方にはエンジョイゼリーなどの補助食が提供される。盛り付けもメニューによって工夫してもらっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食事の時の食器については施設のものであるが、湯飲み、コップについては自宅から持参して頂いたものを使っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナの為、一緒に飲食をすることは控えている。介助の入居者が増えた事、食事中の見守り、食後の対応などが必要のため一緒に食事をするのは難しい状況となっている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	コロナの流行の為に現在は自粛しているが、流行前はカレー作りやおやつ作りを通して実施していた。現在は炊飯のみユニットで実施している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	施設食の為に栄養士が管理している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分が進まない入居者には施設で作るゼリーで代替したり、栄養状態に合わせて、個別で補食を提供するなどして対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立や調理については栄養士が管理しているが、毎月給食委員会を開催しており、栄養士と職員が食事について話し合う場を設けている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	選食の場合は冷蔵庫で保管後、2時間を限度とする、毎週冷蔵庫の掃除、消毒をするなどルールを決めて衛生管理を実施している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会に参加して理解を深めている。				職員は施設内研修等で学び、口腔ケアの重要性を理解しているほか、起床時と毎食後に、利用者は口腔ケアを実施している。また、歯磨きが困難な利用者には、リステインを使用してスポンジブラシで拭き取るなどの工夫を行い、清潔保持に努めている。さらに、歯みがきの仕上げ等の機会に、歯を含めた口腔内の状態を観察するとともに、状況に応じて、早期の歯科医の往診に繋げている。加えて、令和4年10月には、歯科衛生士による全ての利用者の口腔内チェックを計画している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	概ね把握しており、必要に応じて歯科の往診を依頼している。自立の方については口腔体操の時に舌の状態を見たり、仕上げ磨きを確認している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修や勉強会等で学んでいる。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	自己管理が難しい方については夕食後預かり、職員が対応している。毎日、入れ歯洗浄剤を使用して清潔を保持している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	起床時、毎食後の歯磨きを助行している。うがいが多い入居者にはリステインを使用し、スポンジブラシでふき取るようにしている。自身で歯磨きをされている方、口腔内の観察や記録は不十分。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	施設内の研修や外部の研修に参加して理解を深める努力をしている。				高齢化や重度化に伴い、事業所の全ての利用者が紙パンツを使用している。また、併用してパッドなどの排泄用品を使用する利用者もいるものの、居室内にあるトイレだけに限らず、夜間にポータブルトイレを活用するなど、職員は利用者への声をかけて、全ての利用者へトイレ誘導などの支援が行われている。さらに、利用者一人ひとりの排泄リズムを総合記録シートに記録を残し、職員は利用者のタイミングに合わせたトイレ誘導や介助を心がけている。中には、下剤を服用している利用者があるものの、ファイバーやオリーブオイルなどの食品を取り入れたり、水分摂取の管理や運動、腹部マッサージを行ったりするなど、職員はできる限り自然排便が行えるよう心がけた支援をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	施設内の研修に参加し理解を深めている。また、日々の介護から便秘の及ぼす影響を理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録に残す事で大体理解している。認知の進行や体調によってパターン通りにいかない事もあるが、想定内となっている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	訴えない方も、本人の様子を見てトイレに誘導するなど、立位が難しい方は二人介助で行うなどトイレでの排泄をあきらめず取り組んでいる。また、日中と夜間のパッドを使い分ける、夜間のトイレ誘導を行うなどしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	トイレの場所、トイレの座り方が分からないなど、認知の為支障をきたしている事があれば、トイレのマークや文字、絵などで分かりやすく示したり、誘導して助言するなどの対応をする。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	食事の前後や散歩の後など、本人が思いつきやすいタイミングに合わせて声掛けや誘導を実施している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の判断で決定するのは難しい為、特別な変更があるときには家族に相談して了解を得ている。自己決定ができる方は、家族と本人が相談をして決定している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	実施している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ファイバー、オリーブオイル、水分摂取、運動、腹部マッサージ、温電法などの取り組みを、個々の状態に合わせて実施している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	おおよその入浴日、時間は決まっているが、希望があれば個別対応に応じている。	◎		○	週2回、利用者は入浴することができる。重度な利用者も多くなってきており、複合施設の2階部分にある小規模特養の機械浴槽を活用するほか、リフト浴を活用して、職員は安心安全な入浴を支援している。また、利用者が希望する入浴の時間帯や湯船に浸かる長さ、介助の仕方等の希望に応じながら、職員は柔軟な対応をしている。さらに、入浴する気分でない利用者には、時間帯や日にちを替えて職員が声かけをするなどのフレキシブルな対応を行い、入浴してもらうことができている。加えて、浴室等には床暖房が設置されており、利用者は寒さなどの温度差を感じることなく、入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯加減や入浴時間など本人の希望に合わせて実施している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗体、洗髪、浴槽へのまげなどできる範囲で本人に行ってもらっている。その際、転倒に注意して介助を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	本人の気分の良い時を見計らって、入浴に誘っている。もし、拒否が強い場合は、時間や日にちをずらすなどの対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定している。入浴後はバイタルの測定はしていないが、スポーツドリンクを飲用して頂き、目視で体調に変化がないか確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	睡眠時間や様子を記録に残しており、おおむね把握できている。				睡眠時間や睡眠時の様子は、総合記録シートを活用して記録が残され、職員は利用者に合わせて、横になる声かけをしている。また、昼寝を活用することで、利用者の生活リズムを整えようと、日中の散歩や体操などの活動を取り入れながら、職員は利用者が夜間に安眠できるように支援している。中には、眠れずに夜間に共用空間に出てくる利用者もおり、職員はテレビを見てもらったり、一緒にお茶を飲んだりするなどの対応をすることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	散歩やレク活動で日中の覚醒を促している。眠くなるまで時間がかかる方や中途覚醒して眠れない方は眠くなるまでテレビを見て過ごすなどしてもらっている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中は散歩したり、鯉にエサをやりに行く等して日光に当たる機会を作っている。不眠が続く方については看護師に普段の様子を報告し、主治医と相談しながら薬の調整を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	実施している				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	コロナ流行前はご家族が面会に来られており、電話や携帯のやり取りはホームとしては実施していない。現在はテレビ面会を実施している。個人で携帯を持たれている方は毎日連絡を取り合っておられる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	携帯を持たれている方は毎日連絡を取り合っておられる。所用でご家族に電話をした時などに話してもらう事も。面会はテレビ電話で対応している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	現在の所、入居者、家族とも要望が無いが、希望があれば対応できる準備はある。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙やはがきが届くことは年賀状くらいでほとんどない。書簡は本人が管理している。要望があれば連絡を取り合う準備はある。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	携帯を持たれている方は毎日連絡を取り合っておられる。家族に電話したいと希望がある時は対応しているが、現在は特に希望される方はおられない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自由と尊厳の維持という意味で理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	月に2回移動販売車が来ており、主に利用している。それ以外は大型スーパーを利用することになる為、特別な理解や協力は依頼していない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族の判断で金銭の所持はしていない。お金が必要になる場面があれば、施設で替えて対応している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合いをして賛同して頂いている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	必要物品があるときや、訪問美容、外出や外食で現金が必要な時は、その都度家族に連絡し、施設で替える許可をもらって対応している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	出来る範囲で要望には応じている。	◎		○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられているものの、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、髪のカットや毛染めなどをこだわる利用者には、馴染みの美容室へ行くなどの対応もしている。さらに、誕生日の外出やベットとのふれあいコーナー、地域サロンへの外出など、職員は要望等に臨機応変に対応している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	複合施設の為、玄関や建物周囲は施設が工夫している。ホームの入り口は季節ごとに飾るなどして明るい雰囲気になるよう配慮している。	◎	◎	○	事業所は小規模特養等が設置された複合施設の1階部分にあり、共用の玄関として使用されている。また、玄関前には広い駐車場があるほか、花壇が設置されている。さらに、玄関内は広く明るく、面会スペースも広く取っており、入りやすい雰囲気となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていない等。)	○	木材を使用しためくりのある環境が整えられている。入居者とともに作成した絵や塗り絵を飾るなどしている。	◎	◎	○	共有空間にはソファが置かれ、利用者はテレビを見たり、本棚にある本を読んだり、脳トレをするなど、思い思いの場所で日中過ごす利用者も多い。また、中庭に出て野菜づくりをしたり、鯉に餌をあげたりする利用者もいる。天井や壁には、利用者と一緒に作成した季節を感じる作品が飾られているほか、季節の生花も飾られ、利用者や来訪者は季節を感じることもできる。さらに、作業やレクリエーション、食事などの状況に応じて、テーブルの配置を変更するなどの工夫をしている。加えて、加湿器やオゾン発生装置などの空調にも配慮されているとともに、冬には床暖房の設備なども整い、快適な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除をして清潔を心掛けている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとの飾り(毎月の壁面、クリスマスツリー、節句人形)やおやつ作り(おはぎ、かき氷、焼きいも)、テレビ番組(高校野球、紅白)、植物(あじさい、梅)、野菜(ゴーヤ、さつまいも)の収穫など、少しずつではあるが取り組んでいる。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	状況によって、過ごす場所を変えたり、部屋で自由に過ごす時間をとっている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族によって受け取り方が変わってくる。きれいなものをと、購入して来られる方もいるし、自宅から持参される方もいるが家族が本人にとって大切で必要と思うものは持参して下さっている。居室を写真や絵できれいに飾っている方もおられる。	○		○	居室には、ベッドや床頭台、エアコン、トイレ、洗面台等が設置され、他の利用者の目を気にすることなく、トイレへ行くこともできる。また、利用者自身が自宅で使用していた家具や装飾品のほか、家族写真やテレビを持ち込むなど、一人ひとりに合わせた落ち着いた居心地の良い空間づくりを実現している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	必要に応じて、ベッドでの立ち上がりのための手すりや夜間の動向を把握するためのセンサーなどを設置して、自分でトイレに行く際は安全に配慮して見守りを行っている。			○	建物はバリアフリーの構造で広く、利用者の動線が確保されている。また、居室のドア付近には暖簾が掛けられているほか、花飾りをつける等の工夫を行い、利用者が自室を認識しやすいようになっている。さらに、居室内には起き上がりや立ち上がりに関するセンサーが設置されているほか、ベッドからの立ち上がりに使用する介助バーなどを活用することで、利用者が安心安全に生活を送れるような工夫が行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	雑誌、新聞などは手に届くところに置いているが、他のものは安全の為、入居者が希望した時に職員が渡す様にしている。自立の方であれば、自室に必要と思われるものを置いており自己管理している。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	施錠する事の弊害は認識している。現在は日中は施錠せず過ごしている。夜間のみ施錠している。	◎	◎	△	職員は、勉強会等で鍵をかけることの弊害を学び、理解をしている。複合施設の共用玄関には、日中に施錠をしておらず、来訪者等の出入りをセンサーチャイムで把握し、事務所の職員に対応してもらっている。現在、1番地ユニットには、目が離せない不穏な利用者があり、ユニットの入り口等の鍵をかける状況となっている。また、職員は鍵の位置を見えないようにしたり、座席の配置を変更したりするなどの工夫を行っているものの、進展が見られないため、今後は、利用者がグループホームで生活を送る意義が感じられるような関わりがもてるような支援が行われることを期待したい。さらに、2番地ユニットは、日中にユニット等の入り口を施錠はしておらず、夜間のみ防犯対策で施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	現在施錠を希望する家族はおられない。日中は開錠での生活を実施している。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所前のアセスメントシートにより、把握するようになっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	総合記録シートを活用し、記録をこまめにとっており、異常の早期発見につとめている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師に健康面での相談はいつでもできる。夜間もオンコール体制がきちんととれている。週ごとの振り返り(ダブルチェック)を看護師と行い、重度化の防止につとめている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	本人・家族の希望を優先するようになっている。協力病院へ往診、受診の変更があればそのように対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人・家族の希望する病院を受診されている。体調に変化があれば、主治医に連絡を取り必要な情報を伝え、指示を仰いでいる。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	実施している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	実施している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	実施できている。看護師が日頃から密に病院側と連絡をとっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	何でも相談できる関係が築けている。また、看護師の方からも記録を確認し、情報を収集している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間はオンコールの体制がとれている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護師が毎日職員からの聞き取りと、入居者の健康状態を確認しにユニットまで足を運んでおり、体調に異常があった場合は早期発見に努め、主治医へ連絡をしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の種類等は把握しているが、副作用等については十分理解できていない。本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬を防ぐためのマニュアルを作り、それに沿って服薬介助を行っている。必ず2人でチェックを行い薬袋の確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態に変化や不調の兆しがあれば随時看護師に報告し相談している。必要があれば、主治医に連絡して指示を仰いでいる。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	重度化した時点で家族に現時点での体調について、今後たどるであろう経過と家族の以降の確認をとっている。新しく入居される方に関しては、入所時に説明するようにしている。				事業所には、「看取り介護に関する指針」や「重度化した場合の対応に係る指針」があり、入居時に対応できることを説明するとともに、段階に応じて、再度説明をしている。また、複数の医師との連携があるほか、小規模特養の看護師の協力体制も整い、利用者や家族、職員には安心感があり、今までに数名の看取り介護も経験している。さらに、重度化した場合や看取りの状態となった場合には、医師や看護師を交えて家族に説明するとともに、専門職を交えてカンファレンスを行い、方針を共有してチーム体制で支援をしている。加えて、職員への看取りなどの十分な教育も行われ、職員の不安や負担軽減にも努めることができています。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	実施している。主治医は施設の重度化、終末期のあり方について理解しており、医療の面で支えて下さっている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の入居者について現状を把握しており、どこまでの支援が出来るのか、話し合いを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時にも説明しており、理解は得ていると認識している。また、重度化、看取りになった時点で再度説明を行い理解して頂いている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	体制は整えている。各専門職が出来る事を通して支援しており、介護の面ではこれから起こり得る変化について、知識を共有することで、ケアの内容について検討、準備をしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	実施している。不安な事を話して頂き、その都度お答えしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修や定期的な勉強会で、勉強している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルが準備されている。対応方法については、時期ごとに再確認をしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	施設として情報を収集し、朝礼や委員会で情報を共有している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	実施できている。手洗い、うがいに加え出勤の前には検温して体調確認を行っている。面会の家族についても同様で、チェック表の記入、検温を実施してもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に、利用者と一緒イベント時や普段の様子などをお話するようにしている。	/	/	/	コロナ禍において、面会制限が設けられており、家族が来訪する機会は少なくなっているものの、散歩や病院受診時などの際に、家族と会う機会があるほか、事業所では、玄関先や窓越しでの面会を可能としている。コロナ禍以前は、年1回家族会を開催し、家族同士の交流や意見交換を行うことができていたものの、開催を自粛している。また、隔月で「ほのぼの通信」を発行するほか、写真等を送付して、利用者の日々の様子を家族に伝えている。さらに、SNSのインスタグラムを活用して、利用者の写真を配信している。加えて、面会のない家族には、職員から電話連絡時を活用して、利用者の生活状況を伝えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	散歩や受診外出などで協力していただいている。個別の外出では、ご家族にも参加の有無を確認している。コロナの為、家族会が実施できていない。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	隔月で「ほのぼの通信」を作成し、送付している。年に一度、家族会を行う。現在はコロナの為未実施。面会時には写真なども見ていただきながら、行事等での様子をお伝えしている。希望する家族には、プリントした写真をお渡ししている。インスタグラムにも掲載している。	○	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時、本人の様子について話をし、現状は理解して頂いている。どのご家庭も、父母を大切にされており、特別な支援の必要性は感じていない。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	外出行事や、費用の掛かるイベント参加などは、都度ご家族に確認をしている	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後の起こりうるリスクについては、できるだけ事前にお伝えするようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には入居者と一緒イベント時や普段の様子などを伝えている。お茶の提供などもしていたが、現在はコロナの為実施していない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	出来るだけわかりやすくお伝えできるようにしている。必要に応じて文書を送っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	希望があれば対応している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から、説明や理解を図っている。	/	○	/	コロナ禍以前は、複合施設の夏祭りに地域住民が参加したり、複合施設内にある地域交流サロンを活用して、地域の高齢者が参加できる地域サロンを開催したり、フラダンスなどのボランティアを受け入れるなど、交流できる機会が多くあった。コロナ禍において、地域行事等への参加する機会はほとんどないものの、管理者は、今後落ち着いて段階で、行事等への参加を予定している。また、近隣にある障がい者施設の「なかよし村」との交流もできていたものの、現在は交流を自粛している。さらに、複合施設の前は、小中学生等の通学路になっており、学生や近隣住民と挨拶を交わしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	普段からあいさつなどには気を付け、お祭りや盆踊りなどには利用者と一緒に参加させていただいているが、今年はコロナの為実施できていない。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	なにかあった時には、支援して下さる方もたくさんおられると思う。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	以前は民生委員、ボランティアの方のほか、地域の方も面会に来てくださっていたが、今年はコロナの為に来訪はない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	あいさつ程度のおつきあひとなっている。コロナのこともありあまり関係性は深まっていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ流行の為現在は自粛しているが、フラダンスやカラオケ等のイベント訪問に参加させていただいていた。地域施設(なかよし村、はばたき園など)とも交流しており、バザーなどのお誘いを受けている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げ働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣施設のイベント・盆踊りなどに参加させていただくこともある。外出等で地域のお店にも協力していただいている。なかよし村や訪問喫茶が来られた時は、活用しているが今年はコロナの為実施出来ていない。職員のみであるが、地域の防災訓練に参加している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	利用者の参加はないが、家族や地域の方には参加してもらっていたがコロナの為、書面での開催となっている。	△	/	○	運営推進会議は、市担当者や社会福祉協議会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員、家族等の参加を得て開催している。コロナ禍において、現在は書面開催となっており、様々な意見を聞きながら、改善に努めている。また、会議の中で、外部評価の結果等を報告している。管理者は、コロナ禍の影響が改善された際には、集合形式での会議開催を考えている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	自己評価・外部評価の結果を含め、運営推進会議で報告している。現在文書開催であるが、アンケートを実施し、意見をまとめて公表している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	コロナ流行の為現在は書面を送付しての書面会議となっている。流行前はリフトを使用でのケア方法の説明をしたり、入居者や職員と意見交換の茶話会、芋の苗植え、フラワーアレンジメントなどを実施している。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念については、職員会などで重ねて確認を行い、入居者の気持ちに寄り添いながら、安心して生活できるよう取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ご家族には、入所時に説明させていただいている。利用者・地域の方に向けては、今のところ話す機会を持っていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基礎介護勉強会等を通じて、内部研修は計画的に実施するようにしている。外部研修も、偏りが無いよう配慮しながら、内容に応じて参加している。	/	/	/	法人独自の基礎介護テキストを作成して、新人や中途採用の職員教育に活用するとともに、職場内OJTにより、先輩職員の指導を受けながら、認知症介護の実践を積み重ねている。法人として、計画された施設内研修会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。また、日々管理者は現場で職員と一緒に働く中で、介護職員等から話を聞いているほか、いつでも相談に応じる姿勢で臨んでいる。さらに、管理者は、年2回職員と個別面談を行うほか、新人職員には、こまめな面談を重ねながら、仕事に関する相談を聞き取るとともに、アドバイスしている。加えて、法人として、年1回ストレスチェックを行う仕組みを導入されているほか、外部の「こころ塾」への相談体制や研修も行われ、職員のストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	経験のある職員が多いが、新人職員にはOJTを通じて、計画的に育成している。開設以来、退職者は一人もいない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境・条件の整備はできている。各自の向上心までは持っていないように感じる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会で、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。現在コロナの為、会自体が実施できていないが、DVDを配布していただき、ユニット会の中で観ていただくなどしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	こころ塾の活用などで、ストレス軽減にとりくんでいる。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、不適切ケア及び、それらを発見した場合の対応方法などについても周知している。	/	/	◎	複合施設として、他部門と一緒に3か月に1回拘束虐待防止委員会を開催して話し合いをしているほか、年2回虐待や不適切なケアの防止などの勉強会を行い、職員は学んで理解している。また、不適切ケア自己点検チェックシートに職員が記入して振り返りを行うとともに、委員が点検結果を取りまとめて、グレーゾーンの対応を話し合うなど、職員がお互いに意識し合い、注意喚起や再発防止に繋がる仕組みづくりができている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者等に伝えて、該当職員に確認して指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	実施できている。毎月、ユニット会を実施してケアについて話し合いをしている他、日頃から気が付いたことを話し合えるような環境を作っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	実施している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月の拘束虐待防止委員会、拘束虐待防止勉強会に参加する中で、周知している。ユニット会などで、実際の事例を話し合うこともある。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設側の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	△	現在そのような要望はない。実際に要望があった際には、きちんと対応していく体制はある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	普段の仕事の中では馴染みがうすく、理解するのは難しい。いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	いまのところ、相談等はない。実際に相談があった際には、きちんと情報収集を行い、対応していきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	意識不明等の急変に対してのマニュアルはあり、全体に周知しているが、怪我等個別のマニュアルはないが、研修で学習はしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初任者研修で勉強した。消防署職員の救命講習(内部研修)にも、交代で職員が参加していく。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットとも整備されており、速やかに記入ができています。ただ、内容の閲覧までで、十分な検討までできていない。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	実施している。センサーマットや緩衝マットなど使用したり、歩行が不安定な方には歩行器を使用する、歩行時は見守り、手引きをするなど実施している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは整備されているが、苦情はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	いまのところ苦情はまだできていないが、実際に苦情が寄せられた場合は、速やかに対応していきたい。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	いまのところ苦情はまだできていないが、実際に苦情が寄せられた場合は、速やかに対応していきたい。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は作成しているが、いまのところ苦情はよせられていない	○		○	日々の生活におけるケアの場面等の中で、職員は利用者から意見や思いを聞き取り、可能な範囲で柔軟な対応をしている。また、家族からは、面会の機会や電話を通して、意見や要望の聞き取りをしている。さらに、管理者は普段の業務を一緒に行うことで、職員へ話しかけて意見や要望などの聞き取りをするほか、相談に応じるなどの姿勢があり、職員から多くの意見や提案が出されている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初だけしか情報提供できていない				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運び、話す機会を作っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員の意見に耳を傾け、より良い支援の為の検討を重ねている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価は数人の職員で行った。実施後の振り返りは全員に周知した。				外部評価の自己評価は、リーダーを中心にユニット毎に作成しているものの、全ての職員の意見までは聞けていない。昨年度に立てた目標達成計画は、コロナ禍において、十分に組み立てていない項目があるものの、サービスの評価結果は、運営推進会議等を活用して、報告することができる。また、職員にはユニット会議等を活用して、評価結果等を伝えることができている。さらに、運営推進会議が書面開催となっているため、集合形式での様々な意見交換や、利用者の様子、事業所の取組みを直接報告する機会がないため、家族からの運営に関する意見や要望は少ない状況となっている。今後は、運営推進会議の内容等についても、家族会等を活用して幅広く家族に報告を行い、意見や要望が出されることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成しているが、今回、取り組みが不十分であった。全体への周知についても不十分。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果は、各所に報告を行っている。昨年度はコロナの流行の為、家族会を実施できていない。	△	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組みの様子は随時確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災時の対応マニュアルは作成している。そのマニュアルに準じて、他の災害時にも行動できるように伝えていきたい。 火災・地震の防災訓練を実施した。				施設業務マニュアルの中に、消防・防災計画を整備するとともに、消防署の協力を得て、年2回複合施設全体で避難訓練等を実施している。また、コロナ対策を含めた事業継続計画(BCP)を策定するとともに、複合施設は、市行政から福祉避難所の指定を受けて、食料などの備蓄品を用意している。コロナ禍において、集合形式の運営推進会議が開催されていないこともあり、地域との防災に関する話し合いや合同の防災訓練の実施までには至っていない。利用者家族等アンケートの結果から、災害の備えに対して十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議や家族会等を活用して、防災計画や防災への取り組みを周知して話し合ったり、コロナ禍の収束後には、家族や地域住民に防災訓練の参加を呼びかけたり、ほのぼの通信を活用して、避難訓練の様子を掲載したりするなど、安心安全に繋がる周知方法を職員間で検討することを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	実際の避難訓練は行っていないが、夜間の通報訓練などを通して、行動マニュアルを周知するようにしている					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	ガリラヤ久米全体で、物品の用意・点検を行っている					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練で、消防署の協力を得て、指導等いただいているが、地域住民や他の事業所との訓練や話し合いはできていない	x	○	△		
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同上。 地域の災害対策としては、不十分な面もあるが、地域の方と一緒に避難訓練を実施するなどの取り組みを行っている。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	x	グループホーム単体での情報発信や啓発活動はできていない				法人のホームページで広報啓発を行うとともに、ブログやインスタグラム等を活用して積極的な情報発信が行われている。また、認知症に関する相談は、複合施設内にある居宅介護支援事業所で受けて対応することが多いものの、相談が寄せられた場合には、見学対応を行うとともに、適切な相談窓口に繋いでいる。コロナ禍以前は、複合施設の地域交流サロンを、地域の集まりなどに活用してもらうことができていた。さらに、学生の実習や中学生の職場体験等の受け入れにも対応をしている。加えて、小野・久米地区のグループホーム連絡会に参画するとともに、研修や会議に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センター、他の事業所等との連携を図ることはできている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	居宅支援事業所で支援を行っている。 グループホームでは、入所希望者の見学や相談支援を行っている		x	○		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	グループホームとしては場所の提供等できていないが、地域サロンを活用していただいている					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	東温市のガリラヤ荘と連携して、学生等の実習受け入れに協力している					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	グループホーム交流会で、他の施設との交流はあるが、十分ではないと思う。なかよし村の訪問販売などに参加させていただいている。地域の盆踊りや、お祭りの訪問に参加し楽しませていただいている。今年はコロナの為参加できていない					○